



NPO通信

NPO新中期経営計画と実績（その1）



NPOは平成23年度から自主運営となりました。その運営を円滑に行うために平成22年度を準備年度とし、23年度から25年度までの行動指針である「新中期経営計画」を作成しました。この計画の基本命題は下記の3項目でした。

- 1) 教室の確保。プラザのほか、新百合21ビル、各市民館への対応。その際財団の援助をいただく
- 2) 魅力あるカリキュラムの設計。企画・運営委員会の新設、カリキュラム企画・編成委員会の再構築
- 3) 財務の健全性。「入るを計り出づるを制す」を旨とし、常に収支を黒字とする

今回は財務の問題に絞って報告いたします。収支の実績と今後の予想は下表の様になります。

収支の実績と今後の予想（単位：百万円）

項目	21年度実績	22年度実績	23年度実績+予想	24~25年度予想 (年平均)
収入	60	59 *1	68 *2	69
支出	事業費	33	35	35
	管理費	17	26	32
	計	49	59	67
収支	+11	+0	+1	+1
受講生延べ数	5,258	6,082	6,016	6,100

*1) 22年度の収入減（対21年度：-1百万円）：21年度より延べ受講数増加効果等で6百万円の増収となりましたが、財団からの運営業務受託金、講座・ワークショップ負担金等の7百万円減をカバー出来ませんでした。*2) 23年度の増収のうち8百万円は受講料値上げ効果です。

移行期間を通して財団からの資金および情報の援助を受け、自主運営の努力を続けてきました。従来から講師謝金は受講料で賄ってきましたので、財務上の問題点は

- 1) 市からの負担金の廃止
- 2) 事務局職員の給料負担
- 3) 学長俸給やカリキュラム企画・編成委員会等各種委員会費用の負担



を受講料で賄う運営を如何にして実現するかにありました。このためにNPOとしては

- 1) ボランティアによる経営と講座・ワークショップ運営の推進(NPO役員と世話人のボランティア化)
- 2) 新講座（エクセレントI、II、III、現代事情）の開設と広報努力による受講生数の増大
- 3) 受講料の値上げ
- 4) 講師謝金の引き下げ

で対応し、若干の黒字が実現できるまでになりアカデミーを継続し得る見通しが得られました。受講生の皆様には受講料の値上げを認めていただいた上で、ボランティアのかたちで講座・ワークショップの運営を世話人として担当いただきました。これだけの規模と内容を持つアカデミーの運営がボランティアによって担われてきた事は全国に誇ってよい成果だと考えられます。お蔭さまで財務的には「新中期経営計画」どおりの結果が得られています。皆様のご協力に感謝いたします。

平成 24 年度ワークショップの受講料

平成 24 年度ワークショップ運営ルールに関しては昨年 1 年をかけて検討し、受講料を次のようにしたことを N P O 通信 (第 23 号) でも報告いたしました。

(1) 受講料

受講料は原則として下記の如くとする。

会 員 : 12,000 円 / 12 回、10,000 円 / 10 回、6,000 円 / 6 回

聴講生 : 13,000 円 ~ 14,000 円 / 12 回、11,000 円 ~ 12,000 円 / 10 回、
6,500 円 ~ 7,000 円 / 6 回



会員の受講料は変わりませんが、聴講生の受講料は若干の値上げになります。これに関してはワークショップ代表世話人の皆様から講座と同様に会員の優遇措置をとるべきだとの強い要望があり、何回かの話し合いを経て決定いたしました。ワークショップは会員を中心として専門性を重視した継続的な学習を目的としておりますので、会員優先の措置をとりました。聴講生の皆様のご理解をいただきたく、お願い申し上げます。

「公開講座」開催案内

今年も公開講座を実施します。受講していないが興味ある講座やワークショップの内容を体験してみませんか。詳しい学習内容、実施日や会場は「公開講座参加者募集チラシ」でご確認下さい。また、アカデミー受講経験のない知人をお誘い下さい。受講料は無料です。

公開日程 : 2012 年 1 月 16 日 (月) ~ 1 月 27 日 (金)

会 場 : 生涯学習プラザ、新百合 21 ホール

参加講座 : 人間学講座・ワークショップ、政治・社会講座・ワークショップ、
国際関係ワークショップ、いのちの科学講座、音楽Ⅱ講座、音楽Ⅲ講座、美術Ⅱ講座、
経済講座、企業連携講座

「新百合特別講座」開催案内

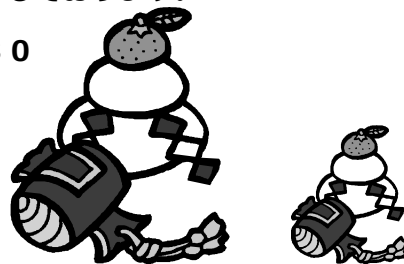
今年も美術特別講座を実施いたします。1870 年代の印象主義からポスト印象派ならびに象徴主義絵画を経由して、1910 年代初めに登場する抽象絵画への流れを跡付けます。講師の一味ちがう熱い語りに、思わず時間を忘れるでしょう。多数の方々の参加をお待ちしております。

開催日 : 2012 年 2 月 2 日 (木) 17:00 ~ 18:30

会 場 : 新百合 21 ホール

テーマ : 抽象絵画への誘い

講 師 : 本江 邦夫 (多摩美術大学教授)



「2012 年度 前期受講生募集説明会」開催案内

初めて受講を希望する方を対象に講座・ワークショップの募集説明会を下記の日程で開催いたします。アカデミーのあらましと講座・ワークショップの内容や申し込み方等をお話します。説明会は無料です。事前申し込みも不要です。まだアカデミー受講経験のない知人にお知らせの上、ご勧誘下さい。

会 場	麻生市民館	ミュージア川崎	多摩市民館	中原市民館	高津市民館
日 程	1 月 26 日 (木)	1 月 27 日 (金)	1 月 30 日 (月)	2 月 1 日 (水)	2 月 4 日 (土)
時 間	13:40 ~ 15:00	13:40 ~ 15:00	13:40 ~ 15:00	13:40 ~ 15:00	13:40 ~ 15:00
実施会場	第 1 会議室	第 1・2 研修室	第 1 会議室	第 3・4 会議室	第 1・2 会議室

講座・ワークショップ紹介 第4弾!

川崎学 まち歩き講座 ◇水曜日 午後1時～ ◇野外

3月11日の大震災以来故郷(ふるさと)へ帰りたくとも帰れない多くの人々がいます。そして、それは明日わが身に起きうるかもしれません。今住む故郷を中心としたまちを改めて見歩き、学ぶ事が意義深い事かもしれません。

川崎は、東京と横浜に挟まれ、それに埋没しかねない「まち」です。しかし、多くの人々が生活の基盤とし、発展している「まち」です。そんなわがまちである川崎市とその周辺を歩きながら、川崎の地理・歴史・文化を知り学ぶ事がテーマです。川崎に住み始めて間もない人や川崎以外に住んでいる人には勿論ですが、なんととっても川崎が故郷、川崎に長く住んでいる人にとって意義のある講座だと言えます。

自分を育ててくれた町を自分の足で歩いて、見て、その生い立ちを知る、そんな機会はあまり多くはありません。若いころは遠い山や河の向こうばかりを見ていて、自分の足元の故郷のことにはあまり目が向かなかったのではないのでしょうか。年を重ねたからこそ見えてくる故郷、それが「まち歩き」の真髄です。

そんな「まち歩き」を、郷土史の第一人者である長島先生と星野先生と一緒に歩き、心地よい汗をかきませんか。

環境とみどり 講座 ◇木曜日 午前10時15分～ ◇生涯学習プラザ/野外

環境とみどり ワークショップ ◇木曜日 午後1時15分～ ◇生涯学習プラザ/野外

東京大学名誉教授 太田猛彦ほか

本講座は、03年から地球温暖化のようなグローバルな問題から、川崎市におけるゴミや公害問題などローカルな問題を含めて、自然と人間が共生できる地球を次世代に引き継ぐために環境問題を総合的に勉強してきました。07年からは太田猛彦東京大学名誉教授を迎え、「低炭素社会」「循環型社会」「自然共生型社会」という観点から「持続可能な社会」の形成を目指して、自然環境とみどりの問題を学んでいます。講師陣も単独の大学では編成できない豪華な顔ぶれです。大学レベルの最新の環境講座ですが、市民感覚のやさしい講座内容に努めています。

今回は、生物多様性の保全と地球温暖化の防止を主テーマに持続可能な社会の構築に関する最新の知識を「講座」と「ワークショップ」で学んでいます。ワークショップでは、川崎市内の環境問題について、市民として知っておくべき最新の情報を提供すると共に周辺の自然観察など、見て、聞いて、実践につなげることも進めています。特に、個人ではなかなか見学できない環境関係の施設、研究所、企業などの見学も行っています。

この講座で勉強したことを活かして、地域において自然の保全、啓発、提言などにつなげる活動をする多くの皆様方もワークショップに参加しています。また、地域の子どもたちに自然保護活動の楽しさも知ってもらおうと同時に世代間の交流も行っています。

2011年は東日本大震災という、自然の猛威を経験しました。また、地球温暖化についてはCOP-17がまどまりのない状況で終了してしまいました。大震災では科学技術が環境に与えるものが、利益だけでなくリスクもあることが見えてきました。今後は、環境と科学技術の問題、環境と経済の関係など、期待の若手の講師をまじえてそれぞれの持ち味を活かした魅力ある講座にしたいと考えています。

環境に興味のある方々、是非本講座・ワークショップに加わって、身近な問題を考え、友人を作り、市民活動に参加しましょう。

地域協働講座 B「企業連携」 ◇金曜日 午前 10 時 15 分～ ◇生涯学習プラザ/野外

《地域社会に貢献している川崎の会社と人々》

講師は会社の第一線マネージャーと代表

この講座は、工都川崎を支えている企業の最新技術及び独自技術を紹介し、川崎の未来を探ると共に地域企業と市民との交流の場です。講座は座学と現地見学の編成で、初めて見聞する会社の技術とその製品の完成までの道のりを経験者が語るところに迫力を感じます。全コマ異なったテーマと講師なので飽きない講座です。又講師が地域人（社員）であることから、親しみ易く、質問が殺到！企業と市民の接近から、お互いの理解がふかまってきました。



新技術で開発された今話題の電気自動車や、その電池のしくみと将来の展望、世界一を勝ちとったスーパーコンピュータ「京」の技術力と開発の苦労話、そして 8 年間ねばり抜いた日経 BP 社「日経 WOMAN」主催のウーマン・オブ・ザ・イヤ-2011 大賞受賞の 3D テレビ開発など、工都川崎の底力が受講者に感動と元気を与えています。多くの先端技術や独自技術が生まれ根付いた川崎から、グローバル社会を生き抜く力を世界へ発信している意気込みも感じとれます。話題は尽きません。来期から多くの受講生ニーズに対応するため、アカデミーでは初めての試みとして当日受講券制度を導入します。定員も 140 人に拡大し**木曜日**の講座としてリニューアル致します。川崎の底力を感じとってみませんか。



地域協働講座 C「川崎のまちづくり」 ◇木曜日 午後 1 時 30 分～ ◇生涯学習プラザ/野外

《震災につよいまちづくりー川崎で大地震が起きたら》

防災ネットワークプラン代表 井上浩一他

川崎のまちづくりに焦点を合わせた川崎学の一講座として、長年愛好されてきましたが昨年、地域密着に重点を置き「地域協働」講座のひとつとして、デビューしました。平成 23 年は 3.11 東日本大震災の未曾有の大被害という現実を直視し、「もし川崎に起こったら」という危機感から、課題と正面から向き合い「震災につよいまちづくり」をとり上げ、講座化したものです。講師陣も学識経験者、防災の専門家、ボランティア活動家、川崎市の危機管理室など多彩でそれぞれの立場から命題に鋭く迫りました。



地震のメカニズムの話には講座参加者から「よくわかった！」の声、危機管理室の市職員は川崎市の防災計画と起きた時の対策について、ボランティア活動家は地域の日常の市民活動との関連で「防災まちづくり」を語りました。また、武蔵小杉・元住吉周辺を 3 班に分かれて歩き、まちの中にある危険や利用できるスポットや施設について楽しみながら「見る目」を養いました。地震が起こったらまず「自分の命を守る！」がテーマです。高い関心を反映して、毎回たくさん質問が出ています。

さて、講座の続編を 2012 年前期で行ないます。いま大地震を踏まえ、各方面で地震規模や津波の想定の見直しが行なわれています。この講座はそのような最新の情報・データを紹介するものになります。船上から川崎臨海部と防潮堤を見る現地見学も予定されています。備えあれば憂い無し！ご参加をお待ちします。



『編集後記』 わが卓にめでたく白き寒牡丹 一つ開きて初春はきぬ

謹賀新年。昨年は 3.11 を始めとした多難な年でした。年も改まり今年にはアカデミーの更なる充実に努めてまいります。

皆様のご多幸を祈念すると共にご協力をお願いいたします。

編集責任者：折居晃一、 田辺初子、 眞田 強、 笹子まさえ